

【質問1】

1-(1)あなた自身による「自己紹介」をお願いいたします。

【自己紹介】

「脱・官僚」を合い言葉に4年前、市長に当選させていただきました。

早いもので、もうすぐ、その節目を迎えます。

私が目指した「脱・官僚」への変革は、

「次世代の負担を考えない独りよがりのハコモノ主義」からの脱却でした。

自らの至らなさから失敗することもありました。

けれども、その度に最優先の判断基準は

「何が市民のためになるのか」、

「どうすれば市役所が、**市民の役に立つ所**になるのか」でした。

そして今「要するに、何をしたいのか、すべきなのか」。

それを新しい横須賀の骨太の方針として打ち出します！

「選ばれるまち横須賀」へ、これが新しいビジョン。

いま、ここから新しいストーリーを動かし始めます！

【プロフィール】

■1975年 12月3日生 いて座のA型 干支は卯

■1994年 県立横須賀高校 卒業

■1999年 早稲田大学政経学部政治学科 卒業

■同年 イギリス・ロンドン短期留学(約3ヶ月)

■同年 アクセンチュア株式会社 入社

■2003年 横須賀市議会議員 5,911票で初当選

■2006年 早稲田大学 大学院

政治学研究科(地方自治行政) 卒業

■2007年 横須賀市議会議員 11,442票で再選

■2009年 横須賀市長選挙 68,628票で当選 無所属 現在に至る

1-(2) これまでの4年間の市政を100点満点で何点と評価しますか。また、そう考える理由をお答え下さい。

100点満点で [77.4] 点

(理由)

今回の公開討論会を主催している「横須賀青年会議所」の皆さんが先日、前回の市長選挙で掲げたマニフェストの最終評価大会を開催してくれました。

ここでは、専門家による外部の評価をいただきましたが、その結果は、「75.7点」でした。

それとは別に、私自身も「実施率」を出しました。

自己評価の数字です。それが「77.4%」です。

これは、4年前に掲げたマニフェストの実施率です。

実は、2年前の任期折り返しのタイミングで、

マニフェストの中身を修正しています。

どうしても財源が手当てできないもの、事実認識が違っていたもの、議会の反対にあったもの、などの観点で見直しを行いました。

私としては、軌道修正が必要なことは、

現場の声をよく聴きながら正直に見直すことが、

市民の皆さんへの誠実な姿勢と考えました。

そのうえで、今回は当初掲げていた項目をベースにして自己評価を行いました。それが冒頭の数字です。

大事なのは、この結果に満足することなく、

次につなげていく姿勢だと考えています。

実現できなかったことは素直に反省をしていきたいと思えます。

【質問2】 今回の横須賀市長選は、市民に何を問う選挙であるとお考えでしょうか？ ご記載下さい。

■実績

私の場合は、この4年間に行ったことが、
本当に市民のためになったのかどうか、問われると考えています。
官僚政治・ハコモノ政策ではなく、
市民のための血の通った取り組みを行ってきたという自負はありますが、
それが本当に市民のためになったかどうかは、
今回、審判の対象になるだろうと思います。

■政策

「選ばれるまち横須賀」という骨太のビジョンに基づいて
今回、「政策集」を発表させていただきました。
本日はお配りすることが出来ないということですが、
この内容の是非を、審判していただく必要があると思います。

■人物

いつの時代もそうですが、
どんなにすばらしい実績でも、どんなにすばらしい政策でも、
それを掲げる人物の想い、情熱、意欲が無ければ
有権者は離れていきます。
その点も問われるのは当然だと考えます。

【質問3】 あなたが今、最も重要だと思われる横須賀市政上の重点政策を順に3つ挙げ、選択した理由などについてご記載ください。

第1位

■教育・子育て環境向上について

私はこれまでも「ハコモノづくり」ではなく「人づくり」を政策の柱に掲げ、子育て・教育環境の充実に力を注いできました。

現在、本市最大の課題である人口減少に歯止めを掛け、少しでも定住人口の増加を目指すことが市政のメインテーマとなっています。

特に結婚・子育て世代の人口の減少が課題となっていることから、「子育て」と「教育」に力を注いでいく必要があります。

そして、若い世代から「選ばれるまち」を目指していきます。

第2位

■行財政改革について

4年前の就任当時に3,132億円だった借金を約130億円減らし財政再建への道筋はつけることができました。

しかし今後も税収回復に大きな期待ができないことや、高齢化の進展に伴う社会保障費等の増加など厳しい状況が続くと想定されます。

地域経済の活性化に重点投資する財源を確保し、持続可能な都市経営を推進していくためにも効率的、効果的な行政運営は欠かすことができません。

第3位

■産業政策・経済活性化について

横須賀の地域経済は、人口の減少、大型商業施設の一部閉館、働く場である大きな企業が市外流出した影響などにより、消費が落ち込み、会社の数や働く人の数の低迷が続く、厳しい状況にあると思います。

市民の実感としても元気度が下がっていると感じている方が多いと思います。

この状態を脱却し市内経済の体質を強化していくことは大切です。

特に、横須賀の顔であり元気のバロメータとも言える「横須賀中央エリアの再生」は経済活性化の鍵であるにとらえています。

【質問4】 政策テーマ別質問

次に掲げる各テーマの政策について、どのような具体策をお考えでしょうか。可能な限り具体的項目、実施期限や実行方法、財源にも触れていただくようお願いいたします。

4-(1) 産業政策・経済活性化について

■成長分野への重点投資を積極的に行います！

※成長を期待している4つの分野

※「地産地消」

- 横須賀ブランド製品の確立
- すかなごっそ・ポートマーケットのさらなる活性化

※「観光・集客」

- 観光客の方がドルを使って買い物できる「ドル旅」の実施
- 中央大通りを歩行者天国にする「ホコ天」プロジェクト

※「シニアマーケット」

- 「はつらつシニアパス」を持っている方への特典商店
- 商店会がご用聞き：現代版「三河屋」を支援します

※「環境・エネルギー」

- メガソーラーの誘致
- 東京電力久里浜火力発電所の活用

■横須賀の顔である「横須賀中央エリアの再生」は本市経済活性化の鍵です。魅力ある商業施設の立地を促す営業活動をしていきます。

■入札制度を改革し、もっともっと市内事業者の発注を増やしていきます。また米海軍基地などから、市内の事業者が受注できる環境づくりにとりくみます。

■財政再建は「責任」。

次の世代から後ろ指を指されないように。
持続可能な財政運営を行うために。
ムダづかいを減らし、収入を増やすために。

まずは計画と目標を立て、財政基盤を確立したうえで、さらなる税源の確保や施設等の配置、運営形態などについて責任ある見直しを進めていきます！

【具体策】

- ・「財政基本計画」を策定し、その進捗状況を財政白書として公表します
- ・すべての事務事業を棚卸して、総点検します(平成25年度)
- ・公共施設の利用率や老朽化度などを調べた「白書」の作成と「白書」に基づいた施設のあり方を検討します
- ・遊んでいる土地を、さらに売却を進めます
- ・「横須賀大好き!」、ふるさと納税を推進します
- ・「払えるのに払わない」、そういった滞納は許しません
- ・下水道使用料、国民健康保険、介護保険料を見直していきます

**■東日本大震災の教訓のもと、
防災に対する備えを充実してきましたが、
地震対策や津波対策などハードとソフトの両面から
さらなる充実をはかります！**

【具体策】

- ・全ての避難所での運営マニュアルの整備を促進します
- ・災害時に対応できる防災グッズを充実します
- ・津波対策を整備します
- ・トンネル、橋りょう、下水道施設などの耐震化を推進します

**■住み慣れた地域で、安心して暮らしていただくため、
予防医療と介護予防を進めて、
生涯現役社会を目指します！**

【具体策】

- ・健康診断をもっと受けていただく工夫をします
- ・プールなどの健康増進施設のお試し利用券を配布します
- ・自宅で最期を迎えられるよう、医療機関との連携を進めます
- ・特養老人ホームの待機者を減らします
- ・救急医療センターを新しく横須賀新港地区に整備します

■子どもは、まちの宝もの。

赤ちゃんが「横須賀で、産まれてきたい！」と
思ってくれるようなまちに。
そして、子育て世代から選ばれるまちに。

「モレ」と「切れ目」の無い、子育てサービスの提供で、
横須賀の将来を担う「人づくり」を行います。

【具体策】

- ・いのちの基金を活用し、出産環境を向上させます
- ・乳児期世帯の「全戸訪問」など相談体制を充実させます
- ・小児医療費助成を段階的に拡充させます
- ・保育園の待機児童を解消します
- ・すべての小学校区に学童クラブを整備します
- ・「放課後学力向上教室」を充実させます
- ・いじめ防止条例を提案します
- ・保護者のニーズに応えた中学校昼食を実施します
(スクールランチの改善)

(もうひとつ、これも言わせてください！)

■「水」と「緑」に親しめる横須賀へ。

横須賀のまちのすばらしさは、
豊かな緑と青い海から感じます。

次の世代にも、このすばらしさを残していきたい・・・。

■海や緑に囲まれた自然環境は、横須賀の魅力です。

次世代に残すべき貴重な財産なのです。

**だから、もっともっと市民や市外から来る人に
体感してもらうために。**

自然と親しめる「場づくり」「機会づくり」を行います。

【具体策】

- ・「緑」、「海」、「島」などをテーマにエコツアーを実施します
- ・観光ガイドもできる(仮称)エコツアーサポート協会を設立します
- ・「野比かがみ田」などで里山の再生を進めます
- ・「こどもが主役になれるまち」という観点から
ソレイユの丘や久里浜花の国公園のあり方を見直します